



IRP's Build Back Better 事例(2004年、モルディブ共和国)

津波からの被害を最小限にとどめた堤防

2015年4月16日

○モルディブのサイクロン被害および対策○

モルディブの首都であり同国最大の島であるマレ島は、海拔が1.5m程度で平坦な地形のため高潮の被害を受けやすく、過去に浸水の被害を繰り返し受けていました。1987年のサイクロンでは、5日間にわたる高潮で島の3分の1が冠水し、首都機能が麻痺しました。さらに、伝染病が発生し、被害が深刻化しました。日本政府およびJICAは、1987年に発生したサイクロンにより同島が高潮の被害による首都機能が麻痺した事態を受け、1987年から2002年にわたり緊急事業として、無償資金協力(総額約75億円)により、同島の周囲に数回の護岸(防波堤)の建設を行いました。この協力により、島民7万5,000人の生命と公共施設・民家などの高潮被害の減少と同時に、地球温暖化による海面上昇の影響で水没も懸念されていた同島の安全性の向上にも貢献するものとなりました。

○Build Back Better ポイント○

この堤防は、2004年12月26日のインドネシア・スマトラ島沖地震により発生した津波において、島の3分の2が水につかりながらも、他の被災国のような深刻な被害はありませんでした。これは、日本の援助により、同島の周囲に建設してきた護岸(防波堤)が、押し寄せる津波の壁として島を守り、死者を一人も出ませんでした。



【写真】マレ島の周囲に建設された護岸(防波堤)

モルディブは東日本大震災後「日本の防波堤が私たちを津波から守ってくれたお礼」として即座に支援の手を挙げ、政府のみならず国民からも義援金が寄付され、また各家庭から同国特産品のツナ缶が拠出されました。モルディブ人の感謝の思いの詰まった69万個以上のツナ缶が被災地に届けられました。

○参照○

外務省「ODA ちょっといい話」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/hanashi/story/asia/maldives1.html>

JICA「モルディブ共和国 津波からの被害を最小限にとどめた堤防」

<http://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/project/kiseki/project03.html>